

旧約聖書を読んで感じること(26) 民数記「ツェロフハドの娘たちの申し出」



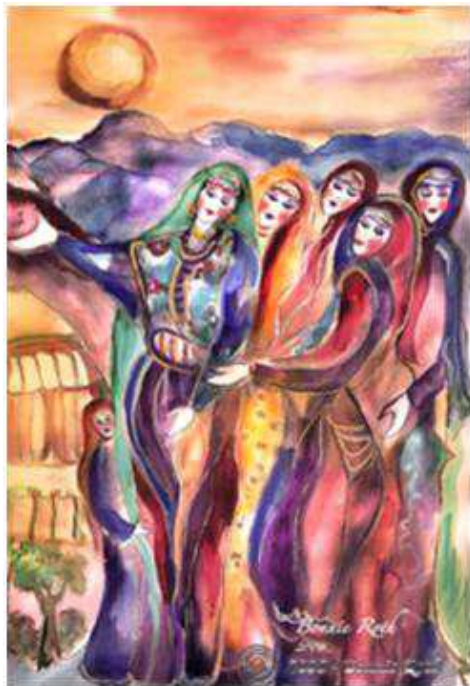
Charles Foster (1897)

この頃、二度目の人口調査が行われ、神がアブラハムに「**あなたの子孫にこの土地を与える**」(創 15:18)と約束された土地を目の前にして、それぞれの部族が**嗣業の土地を分配**されることになりました。

その時、彼女たちは「一族の名は父の名によって息子へと継承されることになっている。父は娘しかいなかったため、名が残らず、一族から削られてしまう。そのため、父の名の嗣業の土地を娘にも与えてほしい」と申し出たのです。つまり、マナセ族のツェロフハドという名前の付いた土地を所有したいという申し出でした。これは「神の約束は女にも与えられる」という信仰でもありました。父の名が残り、また、土地を所有していれば、生活が保障され、マナセ族の勢力にも寄与することになるのです。モーセは神に祈り、解決を得ました。



図19 エルサレム神殿内部



ツェロフハドの娘達 Bonnie Lee Roth

あなたはイスラエルの人々にこう告げなさい。ある人が死に、男の子がないならば、その嗣業の土地を娘に渡しなさい。
…主がモーセに命じられたとおり、イスラエルの人々はこれを法の定めとしなさい。(民 27:8-11)

ただし、息子がいない場合に限られ、また、娘は同族の男性と結婚することを条件に認められました。娘たちはどんなに喜び、安心したことでしょうか。婿を取り、家督を継ぐことが女性にも認められ、嗣業の土地のゆえに、女性も人口調査の対象となり、共同体に確固とした一角を占めることができたのです。

女性が、男性と同等の権利を持ちたいと、願い要求することは、当然なのに、本当に勇気のいることです。庇護され、服従すべき存在と見なされてきた長い歴史の中で、ツェロフハドの五人の娘たちの行為は、その後の女性たちの自立、自尊を促すさきがけになりました。現在でもセクハラ、レイプが多発し、役割分担を押し付けられ、身分・給与の差別などあり、男女同権には程遠い現実を突きつけられています。積極性が求められています。